



檀原 保護 更生

発行 檀原地区保護司会
檀原市畝傍町9-1
檀原市保健センター南館2F
☎ 0744-32-1616
発行責任者 今井 善幸

令和五年を迎えたいご挨拶



檀原地区保護司会
会長 今井 善幸

平素は、檀原地区保護司会の活動に保護司、関係機関・団体の皆様方の多大なご協力とご理解を賜り、心から感謝申し上げます。

さて令和四年も、コロナ禍の影響を受けた一年となりましたが、ワクチン接種も進み、社会の情勢も、本格的なウイズコロナ時代を迎えつつあると感じています。

社会を明るくする運動なども、コロナ禍前に近づいた内容の活動ができるなど、本会の活動も従前どおり実施できるようになってきました。

昨年同様、奈良県では協力雇用組織の連携強化の動きや、保護司活動のICT化の推進など、未来へ向けた新しい動きも活発化してまいりました。次の時代を見据えた変化に対応した活動ができるよう、会一丸となって精進していきたいと思っております。本年も、皆様のお力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

更生保護のこれから



奈良保護観察所
企画調整課長
福西 毅

このたび更生保護法が改正されました。今回は、その中でも、今後、新たに私たちの業務になる「地域援助」について触れたいと思います。

これは、保護観察という関係ではない、例えば満期釈放の人、保護観察を終了した人について、保護観察官が、その人の更生のため支援的に関与できたり、関係機関のサポートができるというものです。

これまでも、保護観察が終わった人について、保護司さんが地域の隣人としてサポートするということが行われてきましたが、本人がサポートを望んだ場合、今後は、保護観察官も、本人に関わることが出来るようになります。

そして、保護観察においても、今後は、その後をより意識することが必要となるでしょう。すなわち、これまで以上に地域の機関と連携し、本人の支援を地域に丁寧にとらえ、本人のサポートが求められるように、本人のアセスメントとそれをふまえた見直しについて、引き継ぎ先に、丁寧

に説明することが求められます。本人の更生をこれまで以上に実現するため、みなさまとともに新たな更生保護を展開していきます。御理解、御協力をよろしく願います。

檀原地区更生保護女性会

令和四年の活動報告



檀原地区
更生保護女性会
会長 熊本 かよ子

コロナ禍で二年間中止になっていた総会を、昨年開催することができました。

更生保護女性会は、地域社会から非行や犯罪をなくし、また過ちに陥った人たちの立ち直りを支援する全国組織の団体です。

活動内容は、地域の中でのミニ集会、子育て支援活動のほか、刑務所・少年院・更生保護施設への訪問や、地域の保護司会や関係団体との連携による「社会を明るくする運動」といった犯罪予防活動も行っています。

昨年度は十月に赤レンガフェスティバル協賛バザーが行われ、販売益は更生保護施設へ寄贈いたしました。

十二月には県更生保護女性会連盟結成六十周年を迎えました。今年が「かがやきホーム」の研修員への援助や社会教育、「子ども食堂」への協力や、子供たちの健全育成のための子育て支援活動を行う予定です。

話題 保護司ホームページ「H@（はあと）」のお知らせから

令和5年度政府予算案に「地域再犯防止推進事業」が計上されました。これは、都道府県が行う再犯防止施策について、半分を国（法務省）が補助するものです。残り半分は自治体の自主財源となりますが、この地方負担分については、地方財政措置（普通交付税）が認められる予定となっています。この分野で地方財政措置が認められるのは初めてのことですし、この意味は大変大きいと考えています。「地域再犯防止推進事業」には、管下の基礎自治体が行う再犯防止への支援が含まれており、地区保護司会と市町村との連携の一層の推進も期待されます。（要約抜粋）
法務省保護局長 宮田氏
基礎自治体との連携がより緊密に連携する事に対し、ハードルが低くなる予感がありました。



檀原地区活動報告

犯罪予防部長 崎山 俊二

令和四年度もコロナ禍でありますので、例年行っていた駅等での街頭啓発はできませんでしたが、前年度に引き続き感染力予防対策に十分配慮しながら、総理大臣メッセージ伝達等の啓発活動を進めてまいりました。

七月一日には、市長へのメッセージ伝達式及び市内六中学校への学校訪問を行いました。総理大臣メッセージ及び運動の趣旨を伝え、のぼり旗設置やポスター掲示など依頼しました。また、市内の全小中学校へ「社会を明るくする運動」作文コンテストへの参加を依頼したところ、小学校で五一四名、中学校で二七四名の児童生徒の応募がありました。その中から、優秀作品六名(小学校三点、中学校三点)を選び、一月一八日に檀原市分庁舎で表彰式を開催しました。



学校訪問

明日香地区活動報告

常務理事 柏井 將志

今般もコロナ禍影響下の社明運動ではありましたが、例年通り公共施設等への横断幕と、村内主要四ヶ所に三〇本ののぼり旗を七月中設置し園児・児童たちの願いとアイデアの詰まった旗が青空にはためました。七月一日には、幼・小中学校への訪問、パトカー・広報車による巡回広報、及び村内一八の事業所へ訪問しての啓発物品配布を実施しました。また、社明作文コンテストには、小中学校共に参加いただきました。これらの活動が、安心安全な地域社会の実現を目指す発信となることを信じ、今後におきましても学校・地域コミュニティをはじめ、関係機関・団体と連携をとりながら村内社明運動を推進してまいります。



学校訪問 / メッセージ伝達

高取地区活動報告

常務理事 中西 宏次

今年は、概ねコロナ禍前と変わらぬ活動となりました。駅前啓発活動も三年ぶりに復活実施となりました。

新しい取り組みとして、町内開催の夏祭り「ここにこフェスタ」に参加。更生ペンギン「ホゴちゃん」を観察所からお借りして、子供さんを含む皆さんへの啓発活動を実施しました。

また、「たかとり子どもサミット」も、数年ぶりに開催。この取り組みは、小学校の子ども達が、町長へ直接素朴な意見や考えをぶつけ、町長をはじめとした行政が答弁することによって、地域や社会との関わりを学んで貰う取り組みです。一人ひとりが考え、更生保護や社会参画を学ぶきっかけをつくることを目指しています。



ホゴちゃん / たかとり子どもサミット

檀原地区保護司会の主な活動



フリーサロン「新任研修会」開催（11月19日）

研修部長 桐山 吉子

今年度のフリーサロンは、当会の全員に開催案内をさせていただき、28名の参加を得て開催いたしました。（従来は保護司経験3年未満の方が対象）

経験豊かな当会の3名の保護司（稲岡照代さん、藤井宣子さん、村井道博さん）による、『私の保護司としての経験談』を聞かせていただきました。担当した対象者の更生と社会復帰を目指して、誠実に対象者と向き合っておられることが、よくわかりました。保護司として、対象者との信頼関係を築くための思いや工夫、働きかけや語りかけ等、具体的に多様な対応の在り方を聞くことができました。まるで、実際の面接場面に立ち会って学んでいるようでした。また、『駐在保護司』の仕事内容についても、知ることができました。保護司として多くの対象者に会って、『その人の育つ環境がその人の生き方に大きく影響する』ことを、参加者全員が再確認したように思いました。



Social Skills Training 研修会（12月10日）

去る令和4年12月10日、サポートセンターに於いてSST研修が開催されました。十数年前から導入され、様々な分野で活用され、更生保護活動の分野でも広がってきていることを受け、23名が研修に参加しました。

「社会生活技能訓練」などと呼ばれ、いわゆる認知行動療法の一つに位置づけられるものであります。本来社会生活の中で身につくものであるが、誰にでも得意な分野、苦手な分野があり、トレーニングを通して、「自信をつけてチャンスを生かすために学ぶ」機会を提供するものであるとのこと。社会生活に伴う困りごとを、会話の中で整理し、その対処法を見つけ出していくことが大切なところです。従って、SST活用の前提として、対象者との信頼関係ができていくことが極めて重要と感じました。

研修の中では、ロールプレイ等の演習による学習を通して、対象者の不満や思いを聞き、その中でも良いところを見つけながら、不満や思いに対処していく事例で、面接に活かせる手法なども知ることが出来ました。学習したことを、今後の活動に活かしていきたいと思えます。



※写真はイメージです

令和4年度 第2期・第3期研修会（9月2日 / 11月4日）

第2期定例研修会は、改めて薬物依存に関する講義でした。近年、若年層を中心に大麻による検挙が増加している傾向であることが伝えられ、薬物依存症やその特徴、処遇方法など改めてケースに応じた事例を聞くことが出来ました。

第3期定例研修では、犯罪被害者等施策について学ぶ機会となりました。犯罪被害者等の方々への制度や、保護観察対象者へのしよく罪プログラムの概要が伝えられ、しよく罪プログラムは、一部保護司による対応があり得るといったことが講義されました。



第72回 ”社会を明るくする運動“ 作文コンテスト表彰作品

第72回社会を明るくする運動作文コンテストに、小中学校から多くの作文を寄せていただきました。その中から、下記の作品を優秀賞として檀原地区保護司会から推薦いたしました。大人の我々が読んでも、ハッとさせられる部分もあり、作者の思いが伝わる文章でした。



受賞作品及び推薦作品一覧

| 学校区分 | 受賞者 | 作品タイトル |
|-----------|-----------------------|-----------------|
| 中学校 部門 | 檀原市立大成中学校 2年 岡本琴美さん | 小さくて大きい環境という社会 |
| | 檀原市立大成中学校 2年 池永稜さん | 人と関わり合うことの大切さ |
| | 檀原市立光陽中学校 3年 藤本杏奈さん | 理解と参画 |
| 小学校 部門 | 高取町立たかむち小学校 6年 福井美織さん | あなたの一言で救われる人がいる |
| | 高取町立たかむち小学校 6年 松尾結さん | 社会の厳しさ |
| | 檀原市立耳成南小学校 6年 福井梨緒さん | 人と人との関わり |

奈良県協力雇用主会が発足します!

橿原地区協力雇用主会は、去る 11 月 20 日の臨時総会で、新たなスタートを切りました。奈良県協力雇用主会の設立です。現在、橿原地区で 37 社の協力雇用主会員がおられ、当会誕生により奈良県下 200 社を越す規模に拡大します。対象者の就職先選択肢が格段に増大するとともに、協力雇用主相互の情報共有や意見交換、研修等を継続的に実施することが可能になります。

また、奈良保護観察所を中心とした関係機関、団体等との連携が円滑化されることで、対象者の居場所づ

くりや教育に視点を移し、長期の雇用を実現する基盤整備がなされます。犯罪や非行をした者の社会復帰を支援し、安全で安心な地域社会の実現に大きく寄与出来る体制が整い、いよいよ 4 月より奈良県協力雇用主会がスタートします。(協力雇用主部長 杉本健)



退任保護司からのお言葉

令和4年11月末、長きにわたりご活躍頂いた浅野宏史先生が、勇退されました。浅野先生から、皆様へお言葉を頂戴しましたので、ご紹介いたします。



二十八年に渡り私のような者が皆様と一緒に活動させて頂きました事に感謝申し上げます。また、皆様に色々ご迷惑お掛けいたしました事お詫び申し上げます。活動を通し培い体験したことが私にとって大きな財産となり今、地域でも頑張っております。

会の益々のご発展と皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。ありがとうございました。終息が見えぬコロナ感染くれぐれもご自愛ください。

浅野宏史

新任保護司の紹介(12月1日付委嘱)

新たに藤川 和利さんが、橿原地区保護司会に配属されました。どうぞ、よろしく願います(^_^)

令和4年 秋の褒章受章 吉田好子保護司

秋の褒章で、吉田好子先生が、藍綬褒章を受章され、令和5年1月19日に開催された本会の新年会合において、お祝いを行いました。栄誉ある受章、誠にありがとうございます。



令和4年度 奈良県更生保護事業関係者 顕彰式典が開催されました

令和4年10月19日に、顕彰式典が開催されました。コロナ禍を考慮し受賞者のみ参席となった今回、橿原地区保護司会からは、法務大臣表彰を受けられた、稲田康子保護司、高榮秀美保護司を始め、総勢11名が受賞の榮譽に浴しました。また、家族功労や活動への感謝として、2名の方々と1団体が表彰されました。

11月4日開催の第3期定例研修の際に、各受賞者の皆様に、伝達の表彰セレモニーが行われました。



編集後記

これまで数号においては、記事にするネタも少なく、苦慮することもあったのですが、今号からはネタに困らなくなりました。それだけ、コロナ禍から脱し、活動が平常運転へと戻りつつあるということかなと感じております。

今回は、活動報告等とともに、雇用主会の一歩進んだ取り組みや、国の動きなども取り上げました。また、保護司活動の ICT 化も盛んに提言されるようになりました。更生保護の世界にもニューノーマル化の流れがやってくるように感じます。

今回も会報第21号の発刊にあたり関係各位から多くのご寄稿を頂き有難うございました。今後ともご支援・ご協力よろしく願います。

(広報部 吉田)